

ISSN 0912-778X

穂別町立博物館館報

第18号

平成12(2000)年度版

穂別町立博物館

目 次

- 沿 設 革(p.1)
- 施 設 の 概 要(p.4)
- 施 設 平 面 図(p.4)
- 展 示 活 動(p.5)
- 広 報 活 動(p.6)
- 普 及 教 育 活 動(p.7)
- 収 蔵 資 料 概 要(p.10)
- 資 料 収 集 保 存 活 動(p.10)
- 調 査 研 究 活 動(p.12)
- 運 営(p.15)

「この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されたものである。」

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見がきっかけとなって建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石(自然史)」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館としてのものであった。

その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

Ⅰ 「建設の目的」と「展示更新」の基本的考え方

〈穂別町郷土資料館建設の目的〉

(昭和55(1980)年11月26日)

『本町は、クピナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開町70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

〈展示更新の基本的考え方〉

(平成2(1990)年6月27日)

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。』

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』

II 沿革

*本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」あるいは「ホベツアラキリュウ」などの使い分けを行っているが、以下に従っている。

- ・「長頸竜」：動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式。
- ・「首長竜」：分類学上の名称としては適切ではないが、この場合「発掘調査団」の固有名称として使用。
- ・「クビナガリュウ」：正式には「蛇頸竜目」または「長頸竜目」あるいはそのカタカナ綴りにするべきであるが、通俗名として普及しているために本の題名として用いられたのであるから、この場合固有名称として使用。
- ・「ホベツアラキリュウ」：昭和52(1977)年7月5～8日に「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された標本の名称。

昭和50(1975)年

6月：穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部採集。発見者：荒木新太郎氏（穂別町在住）。

昭和51(1976)年

9月：佐藤昌人指導員（苫小牧青少年センター）・佐藤隆久教諭（穂別町立仁和小学校）、荒木氏発見の化石を長谷川善和主任研究員（国立科学博物館）に鑑定依頼。

昭和52(1977)年

2月：長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道。白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認。
7月5～8日：「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。後に、この標本を「ホベツアラキリュウ」標本と命名。

昭和53(1978)年

5月：「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング（剖出）作業開始。
11月：穂別町立郷土資料館、開館（旧・穂別町立さくら保育所施設利用）。

昭和54(1979)年

5月：長頸竜化石骨、穂別町指定文化財第2号に指定。

昭和55(1980)年

10月16日：「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足。

昭和56(1981)年

3月13日：施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更。

昭和56(1981)年

7月～12月：博物館建設工事。
9月1日：鈴木 茂学芸員就任（～昭和60年3月31日）。

昭和57(1982)年

1月16日：長頸竜復元作業開始。
3月～6月：博物館展示工事。
7月20日：博物館開館。一般公開開始（初代館長：今幸太郎教育長兼任）。
8月26日：「博物館協議会」発足。
11月1日：北海道博物館協会加入。
12月19日：長頸竜（ホベツアラキリュウ）復元骨格展示公開。
12月19日～1月23日：特別展（第1回）「よみがえるクビナガリュウ」。

昭和58(1983)年

3月2日：博物館法による登録博物館となる（北博登第28号）。
3月28日：「博物館協力会」設立。
4月1日：日本博物館協会加入。
4月28日：菅原康次（第二代）館長就任。
7月22日～8月7日：収蔵資料展（第1回）「地図展」。
8月1日：全国科学博物館協議会加入。
11月1日～3日：収蔵資料展（第2回）「こけし展」。

昭和59(1984)年

2月：村上隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊。
3月27日：「穂別町立博物館研究報告」刊行開始。
6月14日：第二展示室（町立博物館保存庫）完成。
11月1日～4日：収蔵資料展（第3回）「古い写真・古い文書展」。
12月1日：桜庭勝美（第三代）館長就任。

昭和60(1985)年

3月30日：「穂別町立博物館館報」刊行開始。
5月1日：地徳 力学芸員就任（～平成11年3月31日）。
11月1日～10日：特別展（第2回）「北海道一億年」。

昭和61(1986)年

10月21日～11月9日：特別展（第3回）「穂別の自然」。

昭和62(1987)年

1月1日：今幸太郎（第四代）館長就任（教育長兼任）。
7月28日～8月9日：特別展（第4回）「アンモナイトの系図」。

昭和63(1988)年

- 7月17日：第三展示室（保存庫）完成。
- 8月23日～9月4日：特別展（第5回）「穂別のカメ化石」。
- 10月6日：今 幸太郎（第五代）館長就任（専任）。

平成元(1989)年

- 6月30日：仲谷 英夫氏（香川大学助教授）：長頸竜ホヅアラキリュウ標本の記載論文公表。
- 7月18日～8月20日：特別展（第6回）「穂別のむかし=写真で見る穂別の歴史=」。
- 9月29日～10月6日：学芸員、カナダ・アルバータ州ティーレル古生物学博物館に派遣。

平成2(1990)年

- 7月23日：ドラムヘラー市長夫妻（カナダ、アルバータ州）来館。
- 8月18日～9月16日：特別展（第7回）「戦争と穂別」。
- 9月3日～5日：レイド、M. G. 氏（アルバータ州ティーレル古生物学博物館）来館。
- 12月31日：野田藤雄（第六代）館長就任（教育長兼任）。

平成3(1991)年

- 4月1日：佐藤 稔（第七代）館長就任。
- 4月28日、29日：入館者10万人突破記念事業。

平成4(1992)年

- 2月1日：展示更新工事開始。
- 4月23日～25日：カリー、P. J. 氏（アルバータ州ティーレル古生物学博物館）来館。
- 4月29日：展示更新完了、一般公開再開。

平成6(1994)年

- 4月1日：野田藤雄（第八代）館長就任（教育長兼任）。
- 4月1日：川上 源太郎学芸員就任（～平成10年3月31日）。

平成7(1995)年

- 7月15日～9月12日：学芸員、カナダ・アルバータ州ティーレル古生物学博物館に派遣、研修。
- 8月12日：かせき学習館完成。

平成8(1996)年

- 7月27日～28日：'96北海道化石サミット開催（穂別町民センター）。
- 10月6日：大江美津夫（第九代）館長就任。

平成9(1997)年

- 7月6日、7月10日～8月31日：クビナガリュウ発掘20周年記念事業パネル展（第8回特別展）。

平成10(1998)年

- 4月1日：櫻井和彦学芸員就任（現任）。
- 6月11日：星 功（第十代）館長就任。
- 8月11日～8月31日：特別展（第9回）「地球物語り（地質学普及書の近代史）」。

平成11(1999)年

- 1月1日：山田 正（第十一代）館長就任（現任）。
- 5月29日：入館者30万人突破記念事業。
- 8月1日～8月31日：特別展（第10回）「滄龍の泳いだ海-7000万年前の穂別-」。
- 10月5日～11月28日：特別展（第11回）「穂別の自然」。

平成12(2000)年

- 8月1日～8月31日、9月14日～10月1日：特別展（第12回）「穂別の石-川原の石から見た穂別」。
- 9月14日～10月1日：日胆地区博物館等連絡協議会主催移動展「日高・胆振の博物館紹介」

●施設の概要

【位置】

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

【穂別町立博物館】

〔構造規模〕

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：1,100m²

常設展示室	372.88m ²
特別展示室	99.08m ²
収蔵庫	86.56m ²
事務室	40.50m ²
研究室	31.50m ²
整理室	29.92m ²
学習展示室	184.75m ²
書庫	35.05m ²
共用部門	219.76m ²

〔工期〕

昭和56年度～57年度

〔総事業費〕

3億7,276万5,000円

〔展示更新〕

平成3年度～平成4年度：博物館展示替え工事

平成5年度：マルチスライド、イメージソフト制作

〔更新事業費〕

平成3年度～4年度：99,910,000円（内消費税2,910,000円）

平成5年度：6,890,700円（内消費税200,700円）

【かせき学習館】

〔構造規模〕

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：325.89m²

事務室	56.70m ²
作業室	56.70m ²
書庫	14.04m ²
レブリカ室	12.15m ²
処理室	12.15m ²
展示物保管庫	162.00m ²
共用部門	12.15m ²

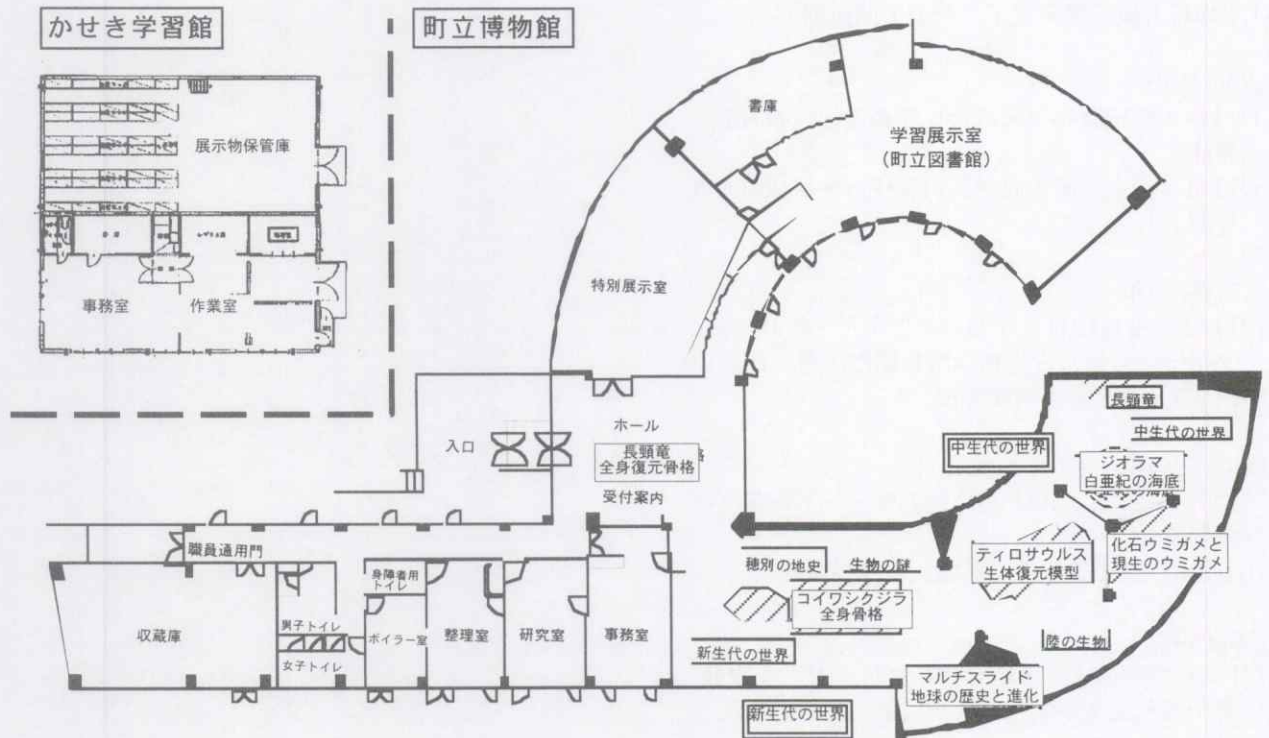
〔工期〕

平成7年度

〔総事業費〕

5,709万2,900円（消費税込み）

●施設平面図



● 展示活動

I 常設展示

穂別町内から産出した動物化石を中心に、地質・化石資料やその復元模型を展示している。

【常設展示の変更】

平成12(2000)年5月31日：遠別産翼竜化石 (HMG-1052) を展示

平成12(2000)年6月30日：ウニ化石、ウミユリ化石、サンゴ化石を展示

平成12(2000)年8月26日：ティロサウルス頭骨レプリカ（足寄動物化石博物館にて作成）を展示

【常設展示資料】

		分 類		点数
化石	脊椎動物	魚 類		7
		爬虫類	長 頸 竜*	10
			モササウルス類*	8
			カ メ	5
			翼竜*(2)、不明(1)	3
		哺乳類	ク ジ ラ	8
			デスモチルス	2
			長 鼻 類*	1
			霊 長 類*	8
		軟体動物	頭 足 類	
	腹足類 (巻貝)		29	
	斧足類 (二枚貝)		38	
	掘足類 (ツノガイ)		4	
	甲 殻 類		7	
	その他の動物	ウニ(5)、ウミユリ(1)、サンゴ(3)		9
	植 物		4	
	生 痕		2	
計			234	

*：レプリカ含む

		分 類		点数
現生生物	脊椎動物	爬虫類	カ メ	3
		哺乳類	ク ジ ラ	4
			鰭 脚 類	1
	軟体動物	頭 足 類		1
	その他	甲 殻 類		1
	植 物			1
計			11	

		分 類		点数
復元模型	脊椎動物	爬虫類	長 頸 竜	1
			モササウルス類	1
			カ メ	1
計			3	

		分 類	点数
		岩 石 そ の 他	21

		分 類	点数
		合 計	269

(2001年3月31日現在)

II 特別展示

【穂別の石-川原から見た穂別-】 平成12(2000)年8月1日～8月31日、9月14日～10月1日

鶴川、穂別川の川原の石を中心に、穂別町内に分布する岩石・地質について紹介。

【胆振・日高の博物館紹介】 平成12(2000)年9月17日～10月1日

日高胆振博物館等連絡協議会主催移動展による、近隣博物館の紹介。

Ⅲ 年間入館者数

分類		平成 8 (1996)年	平成 9 (1997)年	平成 10 (1998)年	平成 11 (1999)年	平成 12 (2000)年
個人	一般	12,269	12,384	7,726	8,591	11,281
	学生	4,859	4,618	2,899	3,190	4,278
団体	一般	1,661	1,685	1,017	785	1,112
	学生	2,599	2,759	1,979	2,306	2,221
計		21,388	21,388	21,446	13,621	18,892

学生：小・中・高校生 (単位：人)

Ⅳ 特定入館日

【学校週5日制関連事業】

学校週5日制実施にあわせて町民無料観覧を実施。毎月第二・第四土曜日を町内の児童生徒無料観覧の日とする。

【博物館開館記念日関連事業】

7月20日の開館記念日に関連して、平成12(2000)年7月20日(木)～7月26日(水)を町民無料観覧の日とした。

【博物館特定入館日他に伴う町民無料入館】

実施日	行事名	一般	学生	計
'00.4.1～ '01.3.31	学校週5日制 (年24回実施)	0	21	21
7.20～26	博物館開館記念日 (7日間)	25	3	28
9.15	敬老の日	3	0	3
11.3	文化の日	14	7	21
11.23	勤労感謝の日	8	0	8
'01.1.8	成人の日	4	8	4
計	延べ35日	54	31	85

学生：小・中・高校生 (単位：人)

● 広報活動

【ホッピーだより (博物館広報紙)】

- 185号 (平成12(2000)年4月)：「1999年度の活動紹介-資料収集、研究活動、普及事業-」
- 186号 (平成12(2000)年5月)：「2000年度の博物館-学芸スタッフ・行事予定-」
- 187号 (平成12(2000)年6月)：「博物館活動の紹介(1)-資料の収集-」
- 188号 (平成12(2000)年7月)：「初夏の行事-ホッピー探検隊ほか-」
- 189号 (平成12(2000)年8月)：「夏の行事-星座観察会ほか-」
- 190号 (平成12(2000)年9月)：「博物館の活動(2)-化石のクリーニング-」
- 191号 (平成12(2000)年10月)：「秋の行事-富内のイギリス海岸ほか-」
- 192号 (平成12(2000)年11月)：「研修の秋-日本地質学会・きのこウォッチング-」
- 193号 (平成12(2000)年12月)：「秋の行事(2)-川原で石を見よう-」
- 194号 (平成13(2001)年1月)：「謹賀新年-今年、へび-」

195号 (平成13(2001)年2月)：「冬の星空-夜空を見上げよう-」

196号 (平成13(2001)年3月)：「2000年の活動紹介」

【博物館協会等機関紙】

- 日胆地区博物館等連絡協議会ニュース
第9号 (平成13(2001)年1月)：「謹賀新年(モサゴンの話)」「川原で石を見よう」
- 北海道博物館協会学芸部会ニュース
第61号 (平成13(2001)年2月)：「穂別の化石」(北海道新聞地方欄掲載記事[1999年]の紹介)

【新聞等掲載】

- 北海道新聞生活欄「ネーチャー通信」
No.30 (平成12(2000)年5月12日)：「博物館講座-化石標本づくりに奮闘-」
- No.44 (平成12(2000)年8月18日)：「穂別の石-河原で知る土地の歴史-」
- No.60 (平成13(2001)年1月12日)：「モサゴンとホッピー」

●普及教育活動

I 博物館事業（博物館の主催・共催事業）

- 平成12(2000)年4月22日
「春の森の探検」：早春の森の観察会（小12、大2）（「土よう日の集い」と共催）
- 平成12(2000)年6月24日
「ホッピー探検隊」：自然観察と化石採集（学習用地）（小34、大8）
- 平成12(2000)年7月2日
「博物館見学バスツアー」：北海道開拓記念館・開拓の村（大6）
- 平成12(2000)年7月7日
「星座観察会(1)・ホッピーと泊まろう」：夏の星座観察と展示室で宿泊（小29、大7）
- 平成12(2000)年10月1日
「きのこウォッチング」：道民の森できのこの観察（小6、大9）
- 平成12(2000)年10月7日
「化石採集会」：化石の採集体験（鶴川川岸）（小8）（「土よう日の集い」と共催）
- 平成12(2000)年11月25日
「化石クリーニングとレプリカづくり」：体験学習（小18、大5）（「土よう日の集い」と共催）
- 平成13(2001)年1月12日
「星座観察会(2)」：冬の星座観察（小16、大9）

II 実施事業（町内）

- 平成12(2000)年5月15日
町教研（理科）「化石採集」（大16）
- 平成12(2000)年6月2日
稲里小学校「穂別の化石」（講演）（小9、大3）
- 平成12(2000)年9月14日
富内銀河鉄道の夕べ「富内イギリス海岸と蛇紋岩溪谷探訪」（地質見学）（大20）

III 実施事業（町外）

- 平成12(2000)年11月22日
北海道立厚真高校（厚真町）「厚真の土地のなりたち」（講演）（小70、大10）
- 平成12(2000)年11月26日
千歳化石会（千歳市）「アンモナイトの生活のしかた」（講演）（大20）

IV 町内団体の利用

*：学芸部門で対応

「」の表記のないものは案内の伴わない展示見学

【町内学校・教育関係団体】

- 平成12(2000)年5月：
25日：転入教職員町内施設研修（大21）
- 平成12(2000)年6月：
9日：穂別中学校（小11、大1）
18日：*穂別高校穂星寮「展示見学」（小20、大4）
- 平成12(2000)年7月：
4日：*仁和小学校3～4年「展示見学」（小11、大2）
13日：*稲里小学校1～6年「化石クリーニング」（小9、大5）
18日：*富内中学校1年「展示見学」（小2、大1）
- 平成12(2000)年8月：
24日：*穂別中学校3年「特別展見学」（小32、大1）
- 平成12(2000)年9月：
19日：*町教研理科・社会「化石クリーニング」（大16）
- 平成12(2000)年10月：
19日：*富内小学校「展示見学」（小5、大1）
21日：穂別中学校（3A、3B）（小40、大2）
- 平成12(2000)年11月：
30日：*町複式教育研究会研修会「展示見学・講演」（大19）
- 平成12(2000)年12月：
15日：*穂別小学校5年「展示見学」（小4）
- 平成13(2001)年2月：
23日：*穂別中学校1年「展示見学」（小9、大1）
27日：*穂別中学校1年「展示見学」（小9、大1）
- 平成13(2001)年3月：
1日：*穂別中学校1年「展示見学」（小5）
2日：*穂別中学校1年「展示見学」（小4）

【町内各種団体】

平成12(2000)年7月：

1日：メタセコイヤシンポジウムパネリスト
(大5)

27日：穂別・鶴川教育委員会合同研修会
(大13)

平成13(2001)年2月：

21日：*穂別地球体験館スタッフ「展示見学」
(大3)

平成13(2001)年3月：

13日：*北海道ウタリ協会穂別支部「人文系
資料見学」(大4)

V 町外団体の利用

*：学芸部門で対応

「」の表記のないものは案内の伴わない展示見学

【町外学校・教育関係団体】

平成12(2000)年5月：

18日：門別町立厚賀中学校(小16、大3)

18日：占冠村立占冠小学校(小9、大2)

21日：長沼町中央長沼中学校(小104、大8)

25日：*札幌市立啓明中学校「展示見学・化
石採集」(小37、大2)

25日：胆振管内校長会役員(大4)

平成12(2000)年6月：

8日：水戸市立第2中学校(小151、大9)

17日：札幌平岸高校(小399、大19)

28日：*札幌市立栄町小学校「展示見学・化
石クリーニング」(小62、大5)

28日：札幌市立平和小学校(小95、大7)

29日：長沼町立南長沼小学校(小27、大3)

平成12(2000)年7月：

1日：胆振管内高等学校初任者研修地域研修
(大5)

5日：*札幌市立曙小学校「展示見学・化石採
集」(小37、大4)

5日：札幌市立幌東小学校(小43、大4)

5日：札幌市立澄川南小学校(小83、大8)

7日：札幌大学(大51)

5日：札幌市立澄川南小学校(小83、大8)

10日：札幌市立新琴似小学校(小125、大10)

11日：札幌市立北陽小学校(小75、大5)

12日：苫小牧市立明野中学校(小189、大9)

12日：苫小牧市立大成小学校(小94、大6)

13日：平取町立二風谷小学校(小27、大8)

18日：札幌市立中の島小学校(小81、大7)

18日：*美唄市立茶志内中学校「展示見学・
化石クリーニング」(小12、大4)

23日：江別市立命館慶祥中学校(小33、大1)

平成12(2000)年8月：

23日：厚真町立厚真中学校(小6)

24日：千歳市立真町中学校(小40、大5)

26日：*道教委マスタープラン策定プロジェ
クト委員会「見学会下見」(大19)

平成12(2000)年9月：

1日：札幌市宮の森保育園(小39、大5)

5日：札幌市立共栄小学校(小89、大7)

9日：*北海道教育大フレンドシップ事業「展
示見学」(小23、大7)

14日：札幌東高校PTA研修会(大80)

23日：*道教委マスタープラン「地質見学・展示見学」(小7、大14)
26日：北海道教育大学札幌校フレンドシップ事業(小38、大7)
30日：*道教委マスタープラン「地質見学・展示見学」(小6、大11)
平成12(2000)年10月：
3日：*新冠町立東川小学校「展示見学」(小4、大2)
平成12(2000)年11月：
2日：*胆振教育局初任者研修「展示見学・講演・地質見学」(大23)
11日：札幌宮の丘幼稚園(小44、大7)
14日：富川ひばり幼稚園(小35、大2)
15日：富川ひばり幼稚園(小55、大2)
17日：富川ひばり幼稚園(小53、大2)
平成13(2001)年3月：
23日：*富山県教育委員会「施設見学」(大2)

【町外各種団体】

平成12(2000)年5月：
26日：戸田実津男氏他(大77)
26日：工業技術院地質調査所(大7)
平成12(2000)年6月：
18日：JSS清田スイミングスクール(小25、大10)
20日：井目戸児童クラブ(小20、大2)
24日：スーパーキッズクラブ(小25、大2)
平成12(2000)年7月：
8日：*NHK文化教室「展示見学」(大19)
15日：胆振土地改良区連合会研修会(大17)
21日：岩田正敏氏他(大2)
平成12(2000)年8月：
11日：石狩北部地区防火委員会(小30、大9)
20日：苫小牧市寡婦の会(小24、大22)
平成12(2000)年9月：
24日：*苫小牧市博物館友の会「展示見学」(小3、大14)
24日：オイスカ秋期事業(小6、大31)
28日：夕張市議会事務局長(大1)
平成12(2000)年10月：
9日：宇宙開発事業団(大3)
19日：*NASDA職員「展示見学」(大2)
25日：北海道財務局(大4)
29日：*東胆振広域圏バスツアー「展示見学」(小21、大150)
平成13(2001)年3月：
22日：*北海道運輸局「展示見学」(大3)

●**収蔵資料概要（登録資料）**

【自然史系登録資料（HMG）】 1,067点
 地質・化石資料
 【自然系登録資料（HMB）】 78点
 現生動植物資料

【人文系登録資料（HMC）】 3,727点
 民俗・歴史資料

(2001.3.31.現在)

●**資料収集保存活動**

I 寄 贈

【自然史系資料】 26件

受入番号	寄贈資料	点数	寄贈者名
00-008	ノジュール（アンモナイト・イノセラムス）	5	千歳化石会
00-010	ノジュール（アモナイトほか）	3	笠巻 袈裟男
00-011	ノジュール（植物or生痕化石）	1	千歳化石会
00-012	ノジュール（サンゴ）	1	千歳化石会
00-013	ノジュール（生痕化石?）	1	千歳化石会
00-014	ノジュール（アンモナイト、巻貝）	4	千歳化石会
00-015-1 ~015-4	ノジュール（アンモナイト） ノジュール（巻貝、巻貝）	4 3	阿部 利春
00-016	ノジュール（アンモナイト）	6	阿部 利春
00-017	ノジュール（イノセラムス）	1	原田 幸一
00-018	ノジュール（植物化石、生痕化石）	2	山田 正
00-022	骨化石（クジラ）	1	笠巻 袈裟男
00-033	ノジュール（スナモグリ、二枚貝ほか）	9	博物館協定会
00-035	ノジュール（二枚貝ほか）	2	佐藤 稔
00-039	ノジュール（二枚貝ほか）	2	芦谷 優子
00-040	ノジュール（アンモナイト）	1	博物館協定会
00-041	二枚貝ほか	3	博物館協定会
00-042	ノジュール（スナモグリ、巻貝）	2	博物館協定会
00-046	化石・鉱物ほか	20	岡田 清美
00-054	イノセラムス	1	林務商工課
00-055	昭和西山付近の転石	1	穂別町役場
00-058	鉱物標本（隕石、方解石、アモナイト）	1式	櫻井 和彦
00-061	貝化石含有砂岩	1	田中 豊
00-064	珪 化 木	1	佐藤 稔
00-069-2	ノジュール（アモナイトほか）	8	千歳化石会
00-070	ノジュール（アモナイトほか）	14	千歳化石会
00-071	ノジュール（アモナイトほか）	22	阿部 利春
00-072	ノジュール（アモナイトほか）	9	高橋 博志
00-076	ノジュール（アンモナイト）	3	阿部 利春

【自然系資料】 1件

受入番号	寄贈資料	点数	寄贈者名
00-075	動物遺体（イノモシカ）	1	浅野 勝司

【人文系資料】 3件

受入番号	寄贈資料	点数	寄贈者名
00-027	洗 濯 板	1	高橋 博志
00-056	鋸 (4)、刃物 (1)、刻印 (1)	16	加藤 敏広
00-063	ストーブ、すり鉢、トビ、鋸 (8)	11	菅原 道男

II 採 集

【自然史系資料】 46件

種 類	個数	主 な 資 料	
岩 石 標 本	210	2001年特別展用の岩石標本（170点）ほか	
化石	骨化石	新生代 1	脊椎動物化石（クジラ?）
	その他化石	新生代 50	第三紀中新世の貝化石（30点）ほか
		中生代 63	アンモナイト、イノセラムス、サンゴほか

【自然系資料】 3件

種 類	個数	主 な 資 料
動 物 標 本	60	鶴川町海浜の軟体動物遺骸（貝殻54点）等

III 野外調査活動

【現地調査】 45回

4月：7日、13日、18日、23日、28日
 5月：3日、17日、23日、25日、30日
 6月：7日、13日、15日、17日、21日、23日、27日
 7月：4日、14日、19日、21日、22日、23日、26日、27日、28日
 8月：9日、18日、23日、25日
 9月：8日、22日
 10月：5日、13日、20日、21日、22日、26日、28日
 11月：15日、16日、17日
 2月：15日、22日
 3月：2日

資料収集18回、普及事業事前調査18回、特別展準備8回、その他調査5回

(重複)

IV 新規登録資料

【人文系資料 (HMC)】 1件

登録番号	資料名	備考
HMC-3728	洗濯板	

V 資料の貸出

- 平成8(1996)年5月11日～平成13(2001)年3月31日
ウミガメ化石：帝京平成大学 平山 廉博士、3点
- 平成8(1996)年8月1日～平成13(2001)年3月31日
ウミガメ化石：帝京平成大学 平山 廉博士、5点
- 平成9(1997)年4月1日～平成13(2001)年3月31日
アンモナイト・イノセラムス：穂別地球体験館、2点
- 平成9(1997)年4月1日～平成12(2000)年3月31日
人文系資料：みどりと文芸の館（富内）、6点
- 平成9(1997)年4月1日～平成13(2001)年3月31日
自然系資料（剥製）：穂別町立穂別小学校、20点
- 平成9(1997)年6月18日～9月9日
クピナガリュウ全身復元模型、モササウルス鱗化石、オサガメ化石：北海道開拓記念館第44回特別展「クピナガリュウからステラーカイギュウ化石に見る世界の海」にて展示
- 平成9(1997)年6月27日～平成13(2001)年3月31日
アンモナイト化石：工業技術院地質調査所地質標本館 利光誠一博士、2点
- 平成9(1997)年7月25日～10月31日
植物化石：三笠市立博物館、7点
- 平成9(1999)年9月3日～9月16日
クピナガリュウ全身復元模型：'97北海道化石サミット記念特別展にて展示
- 平成9(1997)年9月5日～9月6日
人文系資料：第14回ウタリ碑前祭にて使用、15点
- 平成9(1997)年10月1日～平成10(1998)年6月31日
甲殻類の化石：千葉県立中央博物館加藤久佳学芸員、2点
- 平成10(1998)年4月1日～平成11(1999)年3月31日
三笠産魚竜化石：北海道大学大学院理学研究科渡辺暉夫教授、1点
- 平成10(1998)年6月18日～9月30日
クピナガリュウ全身復元模型、モササウルスひれ化石：特別展「化石は語る－太古の海と動物」（芦別星の降る里百年記念館）、各1点
- 平成10(1998)年6月14日～6月17日
シントコ：ウタリ協会穂別支部、1点

I 脊椎動物化石の研究

【総論】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演:

[1984] 穂別町立博物館研究報告、[1]、47-52。

地徳 力(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演:

[1990] 穂別町立博物館研究報告、[6]、37-35。

[1993] 日本地質学会第100年学術大会(東京) 夜間小集會口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌) 一般発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌) 夜間小集會口頭発表

【デスモスチルス】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

公表論文・講演:

[1984] 穂別町立博物館研究報告、[1]、11-23。

[1984] 地団研専報、[28]、51-61。(松井 愈・山口昇一 共著)

[1985] 穂別町立博物館研究報告、[2]、51-62。

赤松守雄(北海道開拓記念館)学芸員に研究委託

公表論文・講演:

[1984] 地団研専報、[28]、63-68。

【クジラ】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

一島啓人(オタゴ大学大学院)氏に研究委託

公表論文・講演:

[1992] 穂別町立博物館研究報告、[9]、37-44。

[1994] The Island Arc、[3]、473-485。

[1994] The island Arc、[3]、486-492。

【ウミガメ】

平山 廉(帝京平成大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告、[2]、17-30。(鈴木 茂 共著)

[1992] 穂別町立博物館研究報告、[8]、17-57。

[1992] 日本地質学会第99年学術大会(熊本)口頭発表

[1994] 地団研専報、[43]、17-24。(地徳 力 共著)

[1994] The Island Arc、[43]、270-284。

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌) 口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌) 夜間小集會口頭発表

[1995] 日本地質学会第102年学術大会(広島) 口頭発表

[1996] 日本古生物学会報告・紀事、[184]、597-622。(地徳 力 共著)

【リクガメ】

平山 廉(帝京平成大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1998] 穂別町立博物館研究報告、[14]、1-6。(紀藤典夫・川上源太郎 共著)

[1998] 日本古生物学会例会(札幌)口頭発表

【長頸竜】

仲谷英夫(香川大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1981] 日本地質学会第88年学術大会(東京)口頭発表

[1982] 日本地質学会第89年学術大会(新潟)口頭発表

[1982] 動物と自然、[12]、11-16。

[1984] 穂別町立博物館研究報告、[1]、37-40。

[1985] 穂別町立博物館研究報告、[2]、43-49。

[1989] 穂別町立博物館研究報告、[5]、43-48。

[1989] 日本古生物学会報告・紀事、[154]、96-116。

【モササウルス】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 穂別町立博物館元学芸員)氏が研究

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告、[2]、31-42。

[1985] 地学団体研究会専報、[30]、45-66。

地徳 力(穂別町立博物館元学芸員)が別資料の研究継続

公表論文・講演:

[1987] 日本地質学会第94年学術大会(大阪)口頭発表

[1990] 日本地質学会第97年学術大会(富山)口頭発表

[1990] 日本地質学会北海道支部報、[1]、45-46。

[1991] 穂別町立博物館研究報告、[7]、9-14。(紀藤典夫 共著)

[1994] 穂別町立博物館研究報告、[10]、39-54。

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)が別資料の研究継続

公表論文・講演：

[1999] 日本地質学会北海道支部1998年度総会・例会(札幌)口頭発表

[1999] 穂別町立博物館研究報告、[15]、53-66。(地徳 力・渋谷直憲 共著)

[1999] 日本地質学会第106年年会(名古屋)口頭発表

【サメ】

久家直之(ジオサイエンス株式会社)に研究委託

公表論文・講演：

[1985] 穂別町立博物館研究報告、[1]、33-36。

【翼竜】(遠別町産)

地徳 力(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演：

[1994] 日本地質学会北海道支部総会講演

[1996] 穂別町立博物館研究報告、[12]、17-22。

II その他の研究

【穂別の地質】

川上 源太郎(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演：

[1995] 穂別町立博物館研究報告、[11]、17-28。

[1997] 穂別町立博物館研究報告、[13]、27-42。

【理科教育】

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)・地徳 力(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演：

[1998] 日本地質学会第105年年会(松本)口頭発表

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演：

[2000] 日本地質学会第107年年会(島根)ポスター発表(共同発表)

[2001] 日本地質学会北海道支部2000年度総会・例会(札幌)口頭発表

【博物館活動】

地徳 力(穂別町立博物館元学芸員)

公表論文・講演：

[1989] 穂別町立博物館研究報告、[5]、33-42。

[1995] 穂別町立博物館研究報告、[11]、29-36。

[1995] 穂別町立博物館研究報告、[11]、37-46。

櫻井和彦(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演：

[2000] 穂別町立博物館研究報告、[16]、9-28。

[2000] 穂別町立博物館研究報告、[16]、29-40。

III 刊行物

【穂別町立博物館館報】

第17号、15頁：平成13(2001)年2月28日発行

IV 学会・大会・研修会等への参加

【学会】

[日本地質学会]

平成12(2000)年9月28日～10月2日：

日本地質学会第107年学術大会（島根大学）：「おしゃれな化石のレプリカ作り」ポスター発表（共同発表）

平成13(2001)年3月24日：

日本地質学会北海道支部2000年度総会・例会（北海道大学）：「川原で石を見よう -地域の地質を教材に活かす試み-」口頭発表

【博物館協会等の大会・研修会等】

[北海道博物館協会]

平成12(2000)年10月12日～13日：

北海道博物館協会・学芸職員部会研修会（余市町）

平成12(2000)年10月25日～26日：

北海道博物館協会・ミュージアムマネジメント研修会（釧路市）

[日胆地区博物館等連絡協議会]

平成12(2000)年4月20日～21日：

日胆地区博物館等連絡協議会 総会（門別町）

平成12(2000)年11月21日～22日：

日胆地区博物館等連絡協議会 博物館職員研修会（虻田町）

平成13(2001)年2月9日：

日胆地区博物館等連絡協議会 役員会・館長会議（白老町）

[その他]

平成13(2001)年3月7日～8日：

脊椎動物化石研究交流会（足寄動物化石博物館）（足寄町）

平成13年(2001年)3月24日～25日：

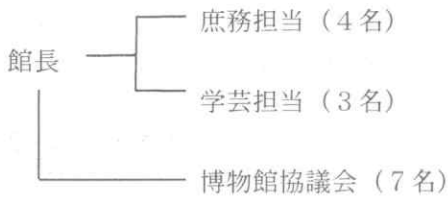
北海道開拓記念館学芸研修講座「遺蹟を読む」（札幌市）

●運 営

I 行事等

平成12(2000)年4月：
 21日：穂別町立博物館協会総会
 平成12(2000)年10月：
 20日：穂別町立博物館協議会
 平成13(2001)年2月：
 28日：展示室大掃除

II 組 織



博物館協議会委員(平成13(2001)年3月31日現在)

会 長 北 倉 了 一
 副会長 村 上 隆
 委 員 小石川 武 美
 委 員 荒 木 新太郎
 委 員 大久保 玲 子
 委 員 内 海 由起江
 委 員 窪 田 敬 一

(任期：平成14(2002)年7月31日まで)

職員名簿 (平成13(2001)年3月31日現在)

館 長 山 田 正
 (管理担当職員)
 主 幹 中 井 学
 臨時職員 (受付) 芥 川 紀 子
 臨時職員 (受付) 深 谷 文 子
 臨時職員 (清掃) 多 村 こゆる
 (学芸担当職員)
 学芸員 櫻 井 和 彦
 嘱 託 (普及員) 伊 藤 あゆ子
 臨時職員 (補助員) 高 橋 義 道

III 利用状況

【常設展示観覧者】

平成12(2000)年4月～平成13(2001)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	952	303	1,255	26
5	2,854	1,235	4,089	25
6	804	986	1,790	25
7	1,602	1,365	2,967	31
8	3,115	1,635	4,750	31
9	1,017	331	1,348	26
10	1,193	347	1,540	24
11	483	166	649	24
12	28	10	38	25
1	71	21	92	20
2	48	30	78	22
3	226	70	296	25
計	12,393	6,499	18,892	304

(単位：人・日)

Ⅳ 歳入

区分	有料入館者数	使用料
一般	個人	5,752
	団体	823
	割引	5,326
学生	個人	2,188
	団体	2,135
	割引	2,015
使用料計	18,239	3,290,850
諸収入	物品販売代	28,800
	私用電話料	2,807
合計		3,322,457

(単位：人・円)

Ⅴ 歳出

費目	決算額
博物館普及員経費	6,076,083
博物館協議会経費	59,420
博物館施設管理経費	15,799,426
博物館協力団体補助金	52,000
博物館屋上改修工事	11,361,000
博物館費合計	33,347,929

(単位：円)

Ⅵ 利用案内

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

【休館日】

- ・毎週月曜日。
- ・国民の祝日の翌日。ただし、その翌日が土曜日、日曜日及び月曜日にあたる場合は火曜日。
- ・館内整理日。
- ・12月31日～1月5日。

*ただし、7、8月は休まず開館。

【観覧料】

	一般	*学生
個人	300円	100円
**団体	200円	50円
***割引	100円	無料

注：未就学児童は無料（要大人の付添い）

* 学生：小・中学生・高校生

**団体：10人以上

***割引：地球体験館との共通利用割引

【減免】

「(徳別町立)博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない(徳別町立博物館設置条例、第6条)」が「(徳別町)教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる(同条例、第7号)」。減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

徳別町立博物館施行規則第6条条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

(教育目的)

1) 徳別町立小・中学校及び北海道徳別高等学校の児童生徒が教育を目的として入館する場合

(研究目的)

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

(福祉目的)

3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

(公益目的)

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館館報 第18号
平成12(2000)年度

発行 2001年3月
発行者 穂別町立博物館
〒054-0211

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6
TEL/FAX (01454) 5-3141
<http://www.bekkoame.ne.jp/~hobemus/>

印刷 穂別誠和学園
〒054-0364
北海道勇払郡穂別町字富内114番地
TEL (01454) 6-6014

